

令和5年度事業実施結果・評価（生涯学習課）

S+: 目標を大幅に上回る成果をあげた S: 目標を上回る成果をあげた A: おおむね目標を達成した B: 業務に支障はないが、目標は下回った C: 目標を大幅に下回った

[illegible]

令和5年度事業実施結果・評価（生涯学習課）

S+: 目標を大幅に上回る成果をあげた S: 目標を上回る成果をあげた A: おおむね目標を達成した B: 業務に支障はないが、目標は下回った C: 目標を大幅に下回った

[illegible]

令和5年度事業実施結果・評価（生涯学習課）

S+: 目標を大幅に上回る成果をあげた S: 目標を上回る成果をあげた A: おおむね目標を達成した B: 業務に支障はないが、目標は下回った C: 目標を大幅に下回った

施 策		内部評価	外部評価	
	・市民による身近な芸術文化の提供及び周知	○11月18日(土)に「八神純子Live」を開催した。チケットを613枚販売し、収容定員充足率は78%だった。 ○1月14日(日)に「3×4×S(さしす) 三味線とチェロ 和洋弦楽の調べ」を開催した。チケットを351枚販売し、収容定員充足率は44%だった。 ○無料の映画鑑賞会を5回、開催した。 ○個人及び団体の催し物については市政だよりやHPで、自主文化事業については、市政だより・HP・公民館及び店舗等へのポスター掲示のほか、テレビやラジオ・新聞などメディアを利用して周知広報に努めた。	○自主文化事業等については、市民の周知を図るためにも開催日の固定化(例えば、毎月第2土曜日など)を検討することが必要である。市民が、「毎月第2土曜日は市民文化センターで催しがある。」と意識するようになれば、予定を組みやすくなり、訴求力もアップする。 ○映画鑑賞会を無料としているが、事業効果としての入場者数だけでなく経費面のバランスも考慮し、有料にすることを検討することが必要である。	
5 文化財の保護と継承	① 地域に遺された文化財の保存と継承を図ります (1)文化財の保存と継承 ◇ 文化財の保存と継承 ・文化財保護審議会の開催と文化財等研修会への参加 ・指定文化財の防災訓練と防火査察の実施 ・指定文化財の周知 ・田村市史シリーズの継続発行 ・無形民俗文化財の保存と伝統芸能の継承	○4回の審議会において現状や問題点について共通理解を図った。また、県文化財保護指導者研修会に参加し、指導者の研鑽に努めている。 ○「文化財防火デー」に伴う国指定文化財堂山王子神社での防災訓練と市指定文化財の防火査察を実施し、文化財継承への意識を高めた。 ○文化財マップを発行して、行政局及び各公民館に配布した。指定文化財標柱・説明版を「芦沢のハツ頭獅子舞」ほか4カ所に設置した。 ○市史9「田村市の文化財 -新装版-」の発行に向けて、資料収集を進めている。文化財マップを発行した。 ○栗出の三匹獅子舞の道具の修繕補助事業を実施し、民俗芸能継承団体の継承活動を支援した。	A	A
	(2)文化施設の整備と充実 ◇ 歴史民俗資料館の活用と文化財保存施設の整備 ・歴史民俗資料館の活用促進 ・文化財保存施設の整備	○市内の昔の生活をしのぶことのできる居住環境をそのまま保存し、常設展示している。市民のほか市外からの入場者の見学も受け入れている。9月30日(土)に昔ばなし事業を開催した。 ○文化財資料保管施設として既存施設を利用する方向で検討を進めている。併せて、膨大な資料についても分別作業を進めている。	A	A
	(3)文化財の調査と活用 ◇ 遺跡調査出土品のデジタル化と保存 ・デジタル資源の活用	○埋蔵文化財包蔵地台帳を作成するとともにデジタル版遺跡地図整備事業に着手した。	A	A
			○昔ばなし事業が内容にふさわしい昔の居住環境の中で行われ、参加者にとって昔話の面白さを堪能できる取組みである。 ○計画的に進めることを期待する。	A
			○埋蔵文化財包蔵地台帳及びデジタル版遺跡地図整備事業の実施は素晴らしい事業である。計画的に進めていただきたい。	

令和5年度事業実施結果・評価（生涯学習課）

S+: 目標を大幅に上回る成果をあげた S: 目標を上回る成果をあげた A: おおむね目標を達成した B: 業務に支障はないが、目標は下回った C: 目標を大幅に下回った

施 策		内部評価		外部評価	
6 生涯学習を起点とする地域活性化	① 地域人材・資源を活用した活動を支援します (1)観光、交流、起業、地域活動等との連携強化 ◇ 学校支援活動事業の推進 - 学校支援地域本部会議及び地域教育協議会の開催 ◇ 地域の人材活用体制の整備 - コーディネーターの育成 - ボランティアの確保と資質向上 ◇ 放課後子ども教室の円滑な運営 - 実施校の継続 - コーディネーターの育成 - 安全管理員等の確保及び養成 ◇ 放課後子ども教室の周知及び広報 「教室だより」や「めだかの学校通信」の発行 (2)リカレント教室（学びなおし）の充実 ◇ 市民大学の推進 - エンジョイライフ支援（生きがい） - 講師募集・育成	○学校支援本部会議においては、各学校からの要望をもとにボランティア登録した地域人材に協力要請するなど学校教育活動の充実に向けてコーディネートしている。具体的には、児童生徒の登下校時の見守りや地域学習の講師としての依頼など多岐にわたる学校支援を進めた。中学校区単位の地域教育協議会と合わせて年2回の会議において情報共有の場を設けている。 ○地元精通したコーディネーターが学校とボランティアとの調整を図り、積極的な活用に努めている。 ○必要に応じボランティアを募集するほか、毎月1回実施のコーディネーター情報交換会議においてボランティア人材の情報が共有され、地域を超えた支援につながった。○コーディネーターが県主催の地域学校協働活動研修会やフォーラムに積極的に参加した。また、コーディネーター・指導員等研修会を開催し、資質向上に努めた。 ○滝根・常葉・船引南・美山の4めだかの学校を、延べ17,774名の児童が利用した。 ○研修会に参加して、コーディネーターの心得や子どもたちの興味を引く遊びの工夫などについて学んだ。 ○地元精通したコーディネーターによる人材確保のほか、必要に応じ市のホームページ等で募集を行う。 ○めだかの学校通信や放課後子ども教室だよりは各教室が発行し、周知広報に努めた。	A	○学校支援のためのボランティアの確保等難しい問題もあるが、大きな役割になっており、引続き支援していく必要がある。 ○地元精通したコーディネーターが学校とボランティアとの調整を図り、積極的な活用に努めている。引き続きコーディネーターの育成に努めていくことを期待する。 ○毎月1回実施の情報交換会議は、コーディネーター間の情報共有に有効である。○コーディネーターやボランティアが個人的に責任を負うことがないような仕組みづくりやバックアップ体制を強化することが必要である。 ○めだかの学校は児童が楽しみにしている。また、地域・保護者・学校も必要としている。今後も引き続き運営していくことが必要である。	A
	◇ 市民大学の推進 - エンジョイライフ支援（生きがい） - 講師募集・育成	○市民大学の開設に向けて、準備委員会を検討を進め、おためし開校を実施した。 ○市民大学の講師募集を行うとともに、講師養成講座を3月に開催した。	A	○人生100年時代への突入により、豊かな人生を送るための一助となる「市民大学」の開校は注目されている。広報の仕方やタイトル付けにも工夫をして、市民大学の講座内容が広く周知されることが必要である。多くの市民が受講することを期待する。	A

令和5年度事業実施結果・評価（生涯学習課）

S+: 目標を大幅に上回る成果をあげた S: 目標を上回る成果をあげた A: おおむね目標を達成した B: 業務に支障はないが、目標は下回った C: 目標を大幅に下回った

施 策		内部評価		外部評価	
	(3)デジタル文化資源の活用 ◇ デジタル化の推進 ・ デジタル文化資源の公開	○古文書デジタル化業務の一環として石井家文書2,000点のデジタルデータ化を進めた。	A	○デジタルデータ化は大変な労力がかかったことと思われる。計画通りに完成したことは大いに評価できる。	S
7 ス ポ ー ツ 推 進 計 画 の 策 定	❶ 生涯・競技スポーツの振興を図ります (1)生涯・競技スポーツの振興 ◇ 生涯・競技スポーツ振興の支援 ・ 地域スポーツ団体による活動支援	○学校や地域スポーツ団体との協議を進め、中学校部活動地域移行について検討を進めている。今後とも連携を密にして地域移行に向けた取組みを支援していく。	B	○中学校部活動地域移行は時代の要請である。学校や地域スポーツ団体との連携については、検討課題が地域全体にかかわることになるため、教育委員会がリーダーシップを発揮することが必要である。	B
8 ス ポ ー ツ ・ レ ク リ エ ー シ ョ ン の 充	❶ 幅広い年代が親しめるスポーツ・レクリエーション活動を推進します (1)スポーツ・レクリエーション活動の推進 ◇ 運動公園内施設によるスポーツ交流人口の拡大 ・ 国内外からの高校や大学、社会人チームの合宿誘致 ・ 県レベル各種大会の誘致 ・ 施設のPR ・ クロスカントリーコースの利活用 ◇ 田村富士ロードレース大会の推進と参加者拡大 ・ 学校やスポーツ団体との連携による参加者の拡大 ◇ ふくしま駅伝への参加と記録への挑戦 ・ 年間を通じた質の高い練習とスタッフの確保	○今年度は、県外高校バドミントン部が総合体育館を、県内高校陸上競技部が陸上競技場を、合わせて2件合宿で利用した。今後は施設リニューアルのPRを含め市内の宿泊施設と連携し、大学や企業の合宿誘致活動に取り組んでいく。 ○総合体育館及び陸上競技場は、市内スポーツ団体の利用が多いため、利用調整に留意しながら、県大会及び県大会支部予選レベル等の各種大会の誘致を積極的に進める。 ○各施設の写真等や各種事業の周知をホームページ等へ掲載した。 ○クロスカントリー大会や市外の団体による練習で活用しているほか、普段は市民がウォーキングなどで活用している。 ○10/15開催の田村富士ロードレース大会は、ふくしま共走ネイチャーランシリーズとのタイアップ3回目の開催となり、698名が参加した。 ○田村市陸上競技協会に業務委託して田村市チームの参加を決定し、陸上競技場やクロスカントリーコースの利用をはじめとした練習環境だけでなく選手強化及び心身のケアにかかわるスタッフへの支援など全面的に連携・協力して事業遂行にあたった。市の部で8位、総合10位となった。	B	○市外から人を呼び込む大会の開催や合宿等の誘致をするためには、田村市の立地環境やスポーツ施設の優位性を訴求できるブランディングを推進する必要がある。特定の競技を強調した誘致・開催戦略を講じることも有効である。1年2年では作り上げることはできないので、長期的視点からの取り組みをしていただき、ブランディングを成功させていくことを期待する。 ○市民の健康づくりや生きがいのために、楽しむスポーツを奨励し普及させる取組みが大切である。 ○姉妹都市との交流の場としてのスポーツ大会を開催し、スポーツを通じた交流人口の増加を図るような取組みを検討することも有効である。 ○県大会及び県大会支部予選レベル等の各種大会が、より多く開催されるよう努力する必要がある。 ○参加者が減っている田村富士ロードレースの魅力を高めるよう工夫が必要である。ふくしま共走ネイチャーランシリーズの活用は、新たな魅力づくりと交流人口の拡大につながるよう期待する。	B

令和5年度事業実施結果・評価（生涯学習課）

S+: 目標を大幅に上回る成果をあげた S: 目標を上回る成果をあげた A: おおむね目標を達成した B: 業務に支障はないが、目標は下回った C: 目標を大幅に下回った

施 策		内部評価		外部評価	
実	(2)スポーツ・レクリエーション施設の活用 ◇ 総合体育館、地区運動場等の利用促進 ・年間利用計画に基づく積極的な施設利用	○年間利用計画に基づく積極的な施設利用・整備に努めてきた。陸上競技場の改修は6月に始まり11月中には予定通り完成した。第3種公認陸上競技場としてさらなる利用拡大につなげられるよう、施設のリニューアル発信に努めていく。	A	○本市の重要施設であり、市民の多くが積極的に活用できるよう施策を講じていくことが必要である。 ○計画に基づく施設利用が積極的に図られ、計画が充実している。	A
	(3)指導体制の充実 ◇ 指導者対象の研修会や講習会の開催 ・スポーツ推進委員研修会・講習会 ・スポーツ講演会	○10月14日、県スポーツ推進委員研究大会に7人が参加し、推進委員の資質向上と生涯スポーツの振興が図られた。 ○1月27日（土）、田村地方スポーツ推進委員講習会に10人が参加し、推進委員の健康づくりに対する意識向上が図られた。今回は、ポッチャ実技体験で参加者からは好評価を得ることができた。 ○2月25日、田村市体育協会が主催し市教委が後援した「福島ホープス監督兼球団代表 岩村明憲氏」スポーツ講演会には市内外のスポーツ関係者をはじめ多くの聴衆が参加して開催することができた。	A	○県スポーツ推進委員研究大会に7人が、田村地方スポーツ推進委員講習会に10人が参加し、スポーツと健康づくりに対する意識向上が図られたことは評価できる。ポッチャ体験もパラ競技の啓発に役立っている。	A